

デザインの現場

DESIGNERS' WORKSHOP

隔月刊
vol. 25 no.157

2008

2

Feb.

第157号 平成20年2月5日発行(隔月刊)年6回価格毎月5日発行 1998年3月21日第3種郵便物認可 ISSN0910-1962



特集

デザインリニューアルで勝負!

23の成功事例を徹底解剖 日本郵政 | BMW MINI | 資生堂 | パーラー | 紀ノ国屋 | ほか

佐藤可士和 | 永井一史 | シンガタ | 仲條正義 | 森本千絵 | ほか



スキージャンプ発祥の地として知られるホルメンコーレンジャンプ台。ノルウェーの首都オスロ郊外に立つこのジャンプの聖地が、2011年のノルディックスキー世界選手権に向けて大々的にリニューアルされる。

改修デザインを担当するのは、建築家ジュリアン・デ・スメドが率いるデンマークの設計事務所、JDSアーキテクト。世界各国からのデザインコンペティションの中から選ばれたプランは「ホルメンコーレン・ライトハウス」。その名が示す通り屋上テラスから天空に向けて光りが放たれ、ジャンプ台の高さを一層強調する。この照明デザインはベルギーとフランスのデザイナーらとのコラボレーションによるものだ。

リニューアルは「Extending Tradition (伸張する伝統)」をコンセプトに、3つのステージからの異なる視認性を意識したという。まずは、丘の上から斜めにそびえるジャンプ台の美しいフォルム。遠くから眺めてもこの特徴的なシルエットが印象的に映るように、シャープでシンプルな形状を極めた。また、デザインの意図を損ねないよう、滑走路に支柱を咬ませない構造にしたのもユニークだ。第2のポイントは、滑走路から観客席を帯状にめぐり、一体感を醸す光のファサード(写真下)。防風壁も兼ねたこのファサードのおかげで、ジャンプ台と観客席とが一体となって、競技の臨場感を煽る。

そして何といても圧巻なのが、ジャンプ台の屋上からの眺望だ。これはジャンプ会が開催されない日も、観光スポットとして人を呼びたいという要望に応えたもの。「シドニーのオペラハウス、コペンハーゲンの人魚像とならぶオスロのランドマークを是非!」という発注主の市当局の要望を見事にかなえた作品となっている。



上：上空から見た図。内側から発光する半透明の四角い防風壁で囲われているのが分かる。また、ジャンプ台の下の着地スロープを取り囲む形ですり鉢型の観客席も用意されている



JDS Architects ベルギー生まれの建築家ジュリアン・デ・スメドが2005年、コペンハーゲンに設立した建築・デザイン事務所(前身は2001年設立のPLOT)。現在スタッフは約30名。穩健かつ堅実を伝統としてきたデンマーク建築界にあって、革新的なアイデアをクリアに表現する姿勢が高く評価されている。住宅、オフィスをはじめ、港湾施設、公園、ホールなど幅広い分野で作品を手がけている。www.jdsarchitects.com

スキージャンプ発祥の地として知られるホルメンコーレンジャンプ台。ノルウェーの首都オスロ郊外に立つこのジャンプの聖地が、2011年のノルディックスキー世界選手権に向けて大々的にリニューアルされる。

改修デザインを担当するのは、建築家ジュリアン・デ・スメットが率いるデンマークの設計事務所JDSアーキテクト。世界各国からのデザインコンペティションの中から選ばれたプランは「ホルメンコーレン・ライトハウス」。その名が示す通り屋上テラスから天空に向けて光りが放たれ、ジャンプ台の高さを一層強調する。この照明デザインはベルギーとフランスのデザイナーらとのコラボレーションによるものだ。

リニューアルは「Extending Tradition (伸張する伝統)」をコンセプトに、3つのステージから異なる視認性を意識したという。まずは、丘の上から斜めにそびえるジャンプ台の美しいフォルム。遠くから眺めてもこの特徴的なシルエットが印象的に映るように、シャープでシンプルな形状を極めた。また、デザインの意図を損ねないよう、滑走路に支柱を咬ませない構造にしたのもユニークだ。第2のポイントは、滑走路から観客席を帯状にめぐり、一体感を醸す光のファサード(写真下)。防風壁も兼ねたこのファサードのおかげで、ジャンプ台と観客席とが一体となって、競技の臨場感を煽る。

最後に圧巻なのが、ジャンプ台の屋上からの眺望だ。これはジャンプ会が開催されない日も、観光スポットとして人を呼びたいという要望に応えたもの。「シドニーのオペラハウス、コペンハーゲンの人魚像とならぶオスロのランドマークを是非!」という発注主の市当局の要望を見事にかなえた作品となっている。



内側から発光する半透明の四角い防風壁で囲われたジャンプ台。屋上テラスから夜空へ向けて光が放たれ、斜めの線をベクトル化。また、ジャンプ台の下の着地スロープを取り囲む形ですり鉢型の観客席も用意されている



JDS Architects ベルギー生まれの気鋭の建築家ジュリアン・デ・スメットが2005年、コペンハーゲンに設立した建築・デザイン事務所(前身は2001設立のPLOT)。現在スタッフは約30名。確固かつ堅実を伝統としてきたデンマーク建築界にあって、革新的なアイデアをクリアに表現する姿勢が高く評価されている。住宅、オフィスをはじめ、港湾施設、公園、ホールなど幅広い分野で作品を手がけている。www.jdsarchitects.com